



START

事業の背景

鋼板・ステンレスへの くり抜き加工を内製化

高い溶接技術を活かし、幅広い製品に対応してきたが、鋼板・ステンレスの切断やくり抜き加工の多くは外注していた。そのため納期が合わず失注していた仕事が少なくなかった。特に、近年需要の増えているステンレス製品については、より高度な溶接技術が必要なため、短納期での対応が難しかった。そこで、ものづくり補助金を活用し、「プラズマ切断機」を導入。材料加工の内製化を図ることで短納期での生産を可能にするとともに、より複雑な溶接や製品に対応できる体制づくりに取り組んだ。



ACTION

取組の内容

腐食しにくく、需要が高まる ステンレス製タンクに参入

プラズマ切断機を導入したことで、自社内で切断・溶接が可能となり、製造時間とコストを大幅に削減することができた。また、同時に取り組んだ溶接技術の高度化により、鋼材溶接に比べ難易度の高いといわれるステンレス溶接の精度が向上。これにより、近年ニーズが増えている燃料用ステンレスタンクを自社一貫体制で製造することが可能となった。また、酒造メーカーなど地域企業のステンレスタンク修理要請への即対応体制の実現も図ることができた。



ABOUT

私たちについて

鉄道やタンクを中心に 幅広く携わる金物加工屋

1978（昭和 53）年に、六日町上町（現南魚沼市）にて創業。創業時は階段の手すりや防雪の金網などを加工していたが、冬になると雪で仕事ができなくなるため、冬場の仕事を首都圏に求め事業を拡大した。現在は、やわらかい頭とかたい仕事をモットーに溶接技術を活かし、鉄やステンレス、アルミなどの金物を中心に扱い、新幹線のボイラーや配管カバー、鉄骨階段など様々な製品や部品を製造。自衛隊がイラク派遣に行く際にはステンレス製燃料タンクを製造した。



FUTURE

今後の展開

ステンレスの利点を伝え、 少しずつ販路を広げる

非常用発電機の燃料や防火水槽などで使われるタンク。従来は鉄製が主だったが、塩害で腐食が進む可能性があり、錆びにくいステンレス製のタンクが利用されるようになった。とはいえ、ステンレス製タンクは、まだ沿岸部や輸出時の使用が多く、内陸部での普及は進んでいない。確かに鉄と

ステンレスで比べると、鉄の方が単価を抑えることができるが、ステンレスには錆びにくい・軽い・塗装なしで使用可能などのメリットがたくさんある。こうした長期的な視点で比べた際の利点を伝えることで少しずつ販路を広げていきたいと現在は考えている。

鉄とステンレスの双方を持っている当社だからこそ、お客様には的確な素材を提案していきたい。



代表取締役
樋口 和人氏

CASE

15

平成 28 年度

有限会社樋口鉄工所

鋼材溶接のノウハウを活かして ステンレス製タンク製造に参入



Info

■ 金属製品製造業

有限会社樋口鉄工所

住 所 新潟県南魚沼市田崎 740 番地 12

T E L 025-775-3831

U R L <http://www.higu-tec.com/index.html>



会社 HP